

再生医療等の内容をできる限り平易な表現をもちいて記載したもの

尿道狭窄症は、前立腺肥大症や膀胱がんに対する尿道内視鏡による手術の後遺症、交通事故や労働作業中の事故の外傷、先天的な尿道の疾患である尿道下裂など、さまざまな要因で生じ、怪我や炎症により尿道粘膜に傷がついて、その傷が修復される過程で尿道粘膜や尿道粘膜を取り囲む尿道海綿体に癒痕化が起こり、尿道が狭くなる病気です。尿道狭窄症の治療方法として、手術によって尿道を再建する治療法がありますが、侵襲性が高く長期の入院が必要とされることになるため、近年は低侵襲で簡便なブジーやバルーンカテーテル、コールドナイフ、レーザー等を利用した経尿道内視鏡的拡張手技が実施されています。しかしながら、上記の従来の治療法では、癒痕組織化した尿道内面に上皮細胞を再建する能力が極めて低いために尿道狭窄を再発してしまうことが問題となっています。本治療は、尿道狭窄治療において低侵襲性の経尿道内視鏡的手技で再狭窄を回避できる尿道狭窄治療剤および尿道狭窄治療方法を提供することを目的としています。

